

Vol. 131

2016.5.17

理事長トーク Top Interview

今年もlive image 16 seize
に協賛しました

医療法人社団 健育会 理事長 竹川節男



「live image」は、2001年の第1回から昨年までの15年間に207公演、58万人を動員している人気のリラクシング・ミュージックのコンサート・ツアーです。健育会グループは、2010年から「live image」に協賛しており、今年で早いもので7回目になります。

今年は、「live image」初のクラシック音楽コンサート専用ホールである格式高いサントリーホールでの開催ということで、楽しみに足を運びました。



お客様の入場の際には、「live image 16 seize」用に作成した健育会をご紹介するリーフレットをアーティストの皆さんのフライヤーと共に配布しました。7回目の協賛ということもあり「live image」ファンの皆さんにはすでに健育会のことをご存知の方も多いと伺っていますが、1階ホワイエと2階ロビーにライフケアガーデン湘南・熱川を中心に健育会グループをご紹介するパネルを設置。加えて、サントリーホール2階の一角にブースを設置し、ご興味を持たれた方に病院・施設のパンフレットをお渡ししました。





クラシック音楽の殿堂「サントリーホール」での開催ということもあり、今回のコンサートはマイクやスピーカー等のPA音響システムを基本的には使わないシンフォニック・コンサートのスタイルで行われました。アーティストの生演奏、肉声は、これまでとは違った趣きを感じられました。特に、今回初めて出演された沖仁さんがフラメンコギターのソロ演奏で奏でた「禁じられた遊び」は、本場スペインのコンペティションで優勝したその卓越した演奏に舌を巻きました。また、「live image」の定番となっている「情熱大陸」は、LE VELVETS (ル ヴェルヴェッツ) のボーカルが入ったスペシャルバージョンで披露され、いつもと違う情熱大陸を楽しむことができました。

そして、コンサートのアンコール曲として、健育会60周年記念曲「Together we walk」(作曲：葉加瀬太郎) をアーティストの皆さんで演奏していただきました。バイオリンやピアノ、オーケストラはもちろんのこと、小松さんのバンドネオン、ゴンチチさんのギター、沖仁さんのフラメンコギターと、いつもと違った楽器が加わった「live image」ならではの贅沢なアレンジとなっており、「Together we walk」が皆さまに愛されて曲としても成長しているように感じて感慨無量でした。



公演中日となる5月1日には、サントリーホール小ホール「ブルーローズ」を貸し切って、普段からお世話になっている方々をご招待し、コンサート前、一部・二部の間の休憩時間、終演後に軽いお食事とお飲み物を楽しんでいただくスペースをご用意いたしました。会場は「live image」の雰囲気に合わせてグリーンの癒し系の安らげる空間を演出し、またスクリーンには「Together we walk」の作曲者である葉加瀬太郎さんからの健育会へのメッセージを流しました。皆さまから「生音で落ちついた感じが良かった」「音楽に心を癒された」などのお声をいただき、日頃お世話になっている皆さまにくつろぎと交流の時間をご提供でいきたくを嬉しく思いました。



また終演後に、今年も「live image」で活躍されたアーティストとスタッフの皆さんへの感謝の気持ちを込めて、健育会主催で打ち上げパーティを開催させていただきました。私からは乾杯の発声の前に、健育会の曲「Together we walk」をアンコール曲として使っていただいたことへの感謝の気持ちと、そしてこれから続くコンサートへのエールをお伝えしました。



今年も、音楽で癒しを届ける「live image」の魅力を、存分に感じることができました。健育会グループでは、今後もこのような社会文化活動を支援していきたいと思います。

